

東日本大震災現地NPO応援基金[特定助成]
東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト

第 10 回選考結果のご報告

2015 年 12 月

認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター

目次

1.第 10 回助成対象事業一覧	1
2.第 10 回助成選考総評.....	2
3.第 10 回助成概要と選考理由.....	4
4. 第 10 回助成応募概況	7
5. 第 1 回から第 10 回までの助成対象事業一覧	11

1.第 10 回助成対象事業一覧

助成件数:5 件 助成総額: 1,800 万円

助成 番号	事業名	団体名	所在地	助成額
10-1	石巻の復興公営住宅におけるアートを通じて多世代が交流できる新しいコミュニティ作り	特定非営利活動法人 にじいろクレヨン	宮城県 石巻市	340 万円
10-2	親子の健全な心と体の成長と地域の支援者を育成する「すくのび広場」の運営	すくのびくらぶ	福島県 いわき市	500 万円
10(継)-1	障害者や要介護高齢者等の暮らしを支える福祉無償運送事業	特定非営利活動法人 愛ネット高田	岩手県 陸前高田市	400 万円
10(継)-2	地域住民の生活支援および地域コミュニティ形成の促進プロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクト K	宮城県 気仙沼市	260 万円
10(継)-3	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima	福島県 福島市	300 万円
<p>* 第 10 回助成は 2015 年 10 月 1 日から 10 月 15 日までの応募について 10 月,11 月,12 月に選考し助成が決定したもの。 * 助成期間は 2016 年 1 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までの 1 年間。 * 愛ネット高田、生活支援プロジェクト K、BridgeforFukushima は第 6 回助成対象団体で何れも継続して助成することとなった。</p>				

2.第 10 回助成選考総評

選考委員長 大橋 正明

[JT NPO 応援プロジェクト概要]

「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」は、特定非営利活動法人日本 NPO センターが 2011 年 3 月から行っている「東日本大震災現地 NPO 応援基金」に対して、日本たばこ産業株式会社から寄付を受け、「特定助成」として 2013 年 8 月から実施している助成プログラムである。これまでの 2 年間で 9 回の助成を行い、52 のプロジェクトに計 2 億 1 千万円を超える助成を行ってきた。

[応募状況]

第 10 回助成(助成期間 2016 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日)は、2015 年 8 月より告知を開始、応募受付期間は 2015 年 10 月 1 日～10 月 15 日であった。

新規助成の応募は 42 件、応募事業の活動地域と団体の所在地は、いずれも宮城県が最も多く、次いで福島県、岩手県であった。応募団体の結成時期を見ると、東日本大震災後に被災地で結成された団体が約 7 割を占め、これまでで最も高い割合となった。全体の約 4 割(17 団体)は過去 1 年間に JT NPO 応援プロジェクトに応募したことがある、つまり今回の応募が再チャレンジとなる団体であった。

継続助成は、応募資格がある 8 団体のうち 5 団体から応募があった。この内、継続 2 年目への応募が 3 団体、継続 3 年目への応募が 2 団体であった。

[選考プロセス]

新規助成の選考は、これまでの選考と同様にまず事務局による予備審査で応募要件等に基づいて検討を行い、本審査の対象として 18 件を選出した。この 18 件を全ての選考委員が選考基準に基づいて事前に書面評価を行ったうえで、全員参加の選考委員会の場で活発に意見を交わし、助成にふさわしいと考えられる 5 団体を選出した。選考委員会終了後、事務局スタッフが 5 団体を訪問し、活動状況や選考委員会で挙げられた点について詳細なヒアリングを行った。この結果を選考委員長に報告して、最終的な決裁を行い、助成事業 2 件を決定した。助成額合計は 840 万円である。

継続助成の選考は、前回のプロジェクトの成果と課題に関する報告内容と今回の応募内容について、全ての選考委員が選考基準に基づいて書面評価を行ったうえで、選考委員会で継続助成にふさわしいと考えられる団体を 3 団体選出した。その後、事務局スタッフによるヒアリングを行い、選考委員長の決裁を経て、助成事業 3 件を決定した。助成額合計は 960 万円であった。

新規助成と継続助成をあわせて、助成件数は 5 件で助成金額は 1,800 万円となった。

[選考における議論のポイント]

新規助成では、応募要項に記載している 5 つ選考基準*1 をベースに審議を行った。また、継続助成では、以下の選考基準に加えて、前年度の事業の目標達成状況等も踏まえて審議を行った。

新規助成、継続助成の審議においてポイントであったのは次の点である。

新規助成は「プロジェクトと組織の将来的な在り方」が論点となった。応募プロジェクトが将来的には受益者等の負担により持続されるのか、何らかの制度の中に組み込まれていくのか等、その方向性とその形へ行きつくための流れとして計画されているのか。プロジェクトの方向性は同時に組織としての方向性も反映しており、この点において明確さと具体性がある企画は高く評価された。

継続助成は、「プロジェクトの成果の可視化」と「変化する地域への対応」が論点となった。1 年目もしくは 2 年目のプロジェクトの実績について、実施した内容とそれに基づく成果と今後の課題が明確になっているものは高く評価された。また、新規助成の申請時から 1 年もしくは 2 年が経過したことで多くの地域ではその状況は変化しており、この変化を的確にとらえた上で企画できているかによって選考委員のプロジェクトに対する評価は分かれた。

2015年も後半に入り、東北で活動する多くの民間非営利組織が2016年以降の取り組みについて模索していることが今回の応募書類を読む中で伝わってきた。従来から指摘されてきた震災への関心の低下や支援金の減少も実際に表れてきている。改めて活動する地域の状況の変化を適切にとらえること、自組織の将来的な展望を決めて打ち出していく必要が高まっている。助成する5団体には、刻々と変化する地域の状況を見据えながら、プロジェクトで関わる方々の声に耳に傾け、息の長い持続的な取り組みを通して被災地のコミュニティの再生に取り組んで頂けることを期待している。

*1《JT NPO 応援プロジェクト選考基準》

地域性:活動する地域のニーズを把握、事業の内容がそれらに基づいて組み立てられているか

参加性:地域の人々や外部からのボランティア等の参加が期待できるか

連携性:地域の他の団体、企業、自治体等と協力して事業が実施されるか

実現性:目標設定、目標に対する計画、予算等が適切で実現性が高いか

継続性:参加する人々の主体性を育て、活動する地域への長期的な貢献を行なえるか

【選考委員】

委員長 大橋 正明 認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター 副代表理事

委員 栗田 暢之 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事

委員 後藤 麻理子 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長

委員 諏訪 徹 日本大学 文理学部 社会福祉学科 教授

委員 永田 亮子 日本たばこ産業株式会社 執行役員

3.第 10 回助成概要と選考理由

助成番号	10-1
事業名	石巻の復興公営住宅におけるアートを通じて多世代が交流できる新しいコミュニティづくり
団体名	特定非営利活動法人 にじいろクレヨン
主な活動地域	宮城県石巻市

【選考理由】

にじいろクレヨンとは、震災後に設立され、宮城県石巻市において避難所や仮設住宅での訪問型子どもの居場所づくり、仮設住宅の住民を対象としたアートプロジェクトを実施してきた団体である。

本プロジェクトでは、復興公営住宅の住民および子どもの保護者を対象としたサロンや、子どもと大人と一緒に参加できるアートワークショップを行い、1年を通じてコミュニティ形成のモデルづくりに取り組む。

仮設住宅から復興公営住宅への移行が今年から来年に掛けて本格化する石巻市内において、復興公営住宅での新たなコミュニティ形成は急務の課題であり、震災当初からの専門性を活かして協力・連携団体と共に、子どもを中心とする新たなコミュニティづくりに期待したい。

助成番号	10-2
事業名	親子の健全な心と体の成長と地域の支援者を育成する「すくのび広場」の運営
団体名	すくのびくらぶ
主な活動地域	福島県いわき市

【選考理由】

福島県いわき市は地震・津波被害に加え、原発事故の影響が残り、住民はいまだ不安の中にある。とりわけ子育て家庭は、屋外遊びに対する不安を抱え、親子ともに心身の健康に支障をきたすケースも出てきている。

すくのびくらぶは、企業の協力を得て3年前からいわき駅付近に立地する商業施設の一角を利用して、0歳から6歳までの乳幼児と保護者を対象に屋内の遊び場「すくのび広場」を設置、運営している。また、この広場は子育て相談や子育て支援者の学びの場にもなっている。

本プロジェクトは、過去3年で確立してきた広場の運営を維持し、より専門的な子育て支援の拠点となるよう、スタッフの保育士資格の取得を支援する。また、子育て世代が子育て不安を解消し安心した生活が送れるよう、子育て家庭・支援者・高齢者に学びの機会を提供する。

本団体のメンバー（有給スタッフ・ボランティア）が力を合わせて運営にあたっている様子が伺われ、本助成によりプロジェクトが質量ともに発展していくことを期待したい。

助成番号	10(継)-1
事業名	障害者や要介護高齢者等の暮らしを支える福祉無償運送事業
団体名	特定非営利活動法人 愛ネット高田
主な活動地域	岩手県陸前高田市

【選考理由】

愛ネット高田は、2002年より岩手県陸前高田市で介護保険事業を実施している団体であるが、2015年1月よりJDF いわて支援センターから引き継いで、障害者や要介護高齢者を対象に無償での移動支援事業を実施している。

助成1年目のプロジェクトでは、障害者や要介護高齢者の重要な移動手段として活用され、延べ利用者数は2,000人に達した。

助成2年目となる今回のプロジェクトでは、継続して福祉無償運送事業に取り組み、慢性疾患を抱える利用者の定期通院化を実現する。また、福祉有償運送事業として持続的な取り組みに発展できるよう行政等に働きかけ、最終的には陸前高田市の交付金事業として確立することを目指す。

郊外の高台への住居移転や市内外の公共交通機関が未整備な状況にあるなど地域課題が山積する中、こうした移動手段を求めている被災者等のニーズは相当高いものと思われる。NPOの経営基盤の強化も含め、継続した取り組みになるよう期待したい。

助成番号	10(継)-2
事業名	地域住民の生活支援および地域コミュニティ形成の促進プロジェクト
団体名	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK
主な活動地域	宮城県気仙沼市

【選考理由】

生活支援プロジェクトKは、宮城県気仙沼市階上地区の応急仮設住宅および在宅の被災者を対象に、「はしかみ交流広場」を拠点に、なんでも相談・健康相談、いきいき体操、健康講話・保健劇をはじめ、野菜づくりや編み物講座、自治会への支援活動等、地域に密着した多様な支援活動を実施している。

助成3年目となる今回のプロジェクトでは、応急仮設住宅やみなし仮設住宅から防災集団移転や災害公営住宅等への転居という転換期を迎えるにあたり、これまでの活動を継続しつつ、住民同士で支え合うことができる地域の体制づくりに取り組む。

各地域において住民一人ひとりの問題を地域全体の課題としてどう対処していくのかが問われており、本プロジェクトにおいても、支援者間の協議の場づくり、行政との連携等、支援の輪を広げて継続した取り組みとなるよう期待したい。

助成番号	10(継)-3
事業名	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム
団体名	一般社団法人 Bridge for Fukushima
主な活動地域	福島県内

【選考理由】

Bridge for Fukushima は、福島県内の高校生たちが自ら関心をもった社会テーマを取り上げ、その解決に向けたプロジェクトに参加した高校生自身が主体的に組み立て、実行できるよう、高校生のメンタリングから資金調達まで支援するプログラムを運営している。

助成 2 年目のプロジェクトでは、高校生から提案された企画について、具体的な手法を学ぶ機会を提供し、参加者同士の作戦会議や事業評価を兼ねた合宿などを通して、学校を超えたつながりや、同じ学校における先輩・後輩のバトンリレーが生まれてきた。

助成 3 年目となる今回のプロジェクトでは、参加者のさらなる拡大や、県内外の大学生メンターを養成するなど、プロジェクトを発展させながら継続的な取り組みとすることを目指す。

本プロジェクトを通して、さまざまな問題を抱える福島という土地で、社会的な課題に取り組む若者が一人でも多く育っていくことを期待したい。

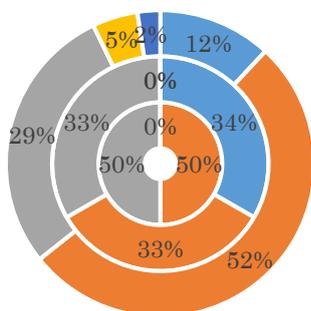
4. 第10回助成応募概況(応募期間:2015年10月1日-10月15日)

(表)

	新規助成	継続助成(2年目)	継続助成(3年目)
■応募件数	[合計] 42 件 [再応募] 17 件(40%)	[合計] 3 件 [再応募] 0 件(0%)	[合計] 2 件 [再応募] 0 件(0%)
■助成希望額	[合計] 1億8,567 万円 [平均] 442 万円 [最高] 500 万円 [最低] 300 万円	[合計] 1,190 万円 [平均] 397 万円 [最高] 400 万円 [最低] 390 万円	[合計] 563 万円 [平均] 282 万円 [最高] 300 万円 [最低] 263 万円
■活動地域 ※0内は割合	[岩手県] 5 件(12%) [宮城県] 22 件(52%) [福島県] 12 件(29%) [複数県] 2 件(5%) [3県外] 1 件(2%)	[岩手県] 1 件(33%) [宮城県] 1 件(33%) [福島県] 1 件(33%) [複数県] 0 件(0%)	[岩手県] 0 件(0%) [宮城県] 1 件(50%) [福島県] 1 件(50%) [複数県] 0 件(0%)
■団体所在地 ※本部事務所 ※0内は割合	[岩手県] 3 件(7%) [宮城県] 18 件(43%) [福島県] 12 件(29%) [3県外] 9 件(21%)	[岩手県] 1 件(33%) [宮城県] 1 件(33%) [福島県] 1 件(33%) [3県外] 0 件(0%)	[岩手県] 0 件(0%) [宮城県] 1 件(50%) [福島県] 1 件(50%) [3県外] 0 件(0%)
■設立時期 ※0内は割合	[震災前] 13 件(31%) [震災後] 29 件(69%)	[震災前] 2 件(67%) [震災後] 1 件(33%)	[震災前] 0 件(0%) [震災後] 2 件(100%)
■法人格 ※0内は割合	[NPO] 23 件(55%) [一般社団] 6 件(14%) [その他] 0 件(0%) [法人格なし] 13 件(31%)	[NPO] 2 件(67%) [一般社団] 1 件(33%) [その他] 0 件(0%) [法人格なし] 0 件(0%)	[NPO] 1 件(50%) [一般社団] 1 件(50%) [その他] 0 件 [法人格なし] 0 件

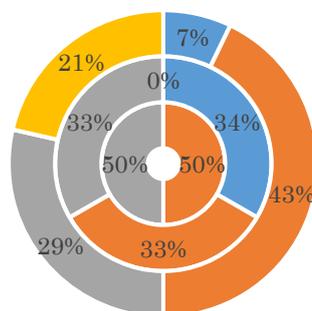
(グラフ) 一番外側の円＝新規助成／真ん中の円＝継続助成 2 年目／一番内側の円＝継続助成 3 年目

活動地域



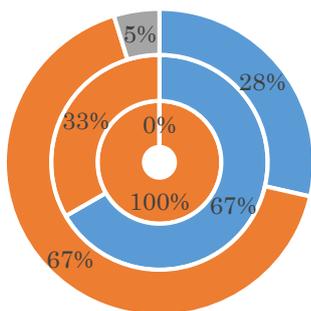
■ 岩手県 ■ 宮城県 ■ 福島県 ■ 複数県 ■ 3県外

団体所在地



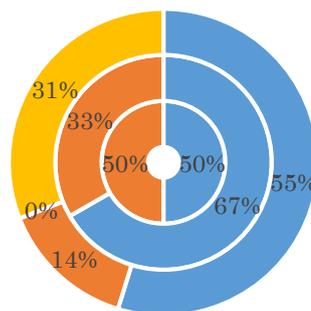
■ 岩手県 ■ 宮城県 ■ 福島県 ■ 3県外

設立時期



■ 震災前 ■ 震災後 ■ 不明

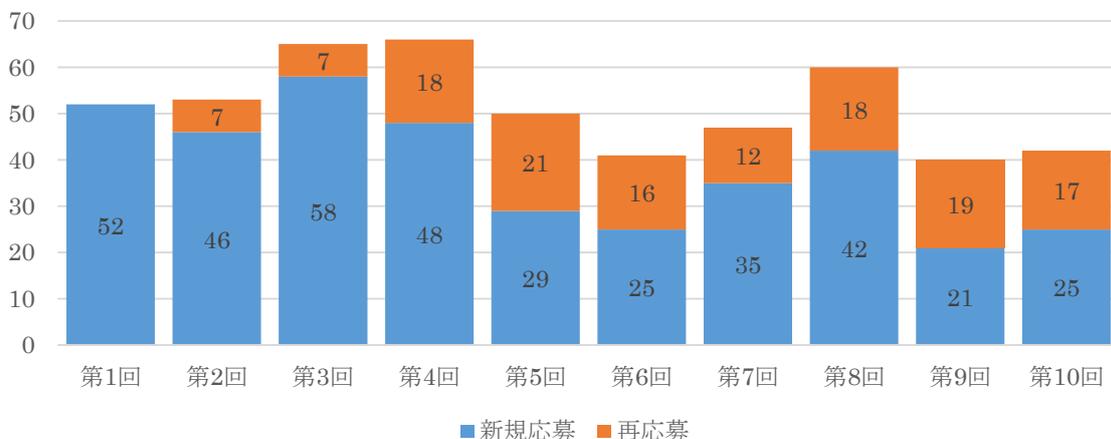
法人格



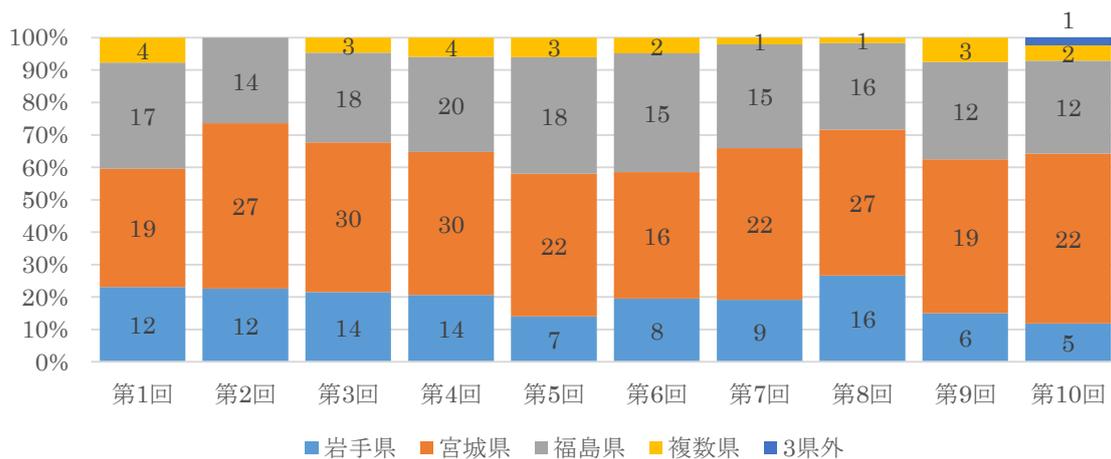
■ NPO ■ 一般社団 ■ その他 ■ 法人格なし

2. 過去助成回応募概況(第1回～第10回) ※新規助成のみ

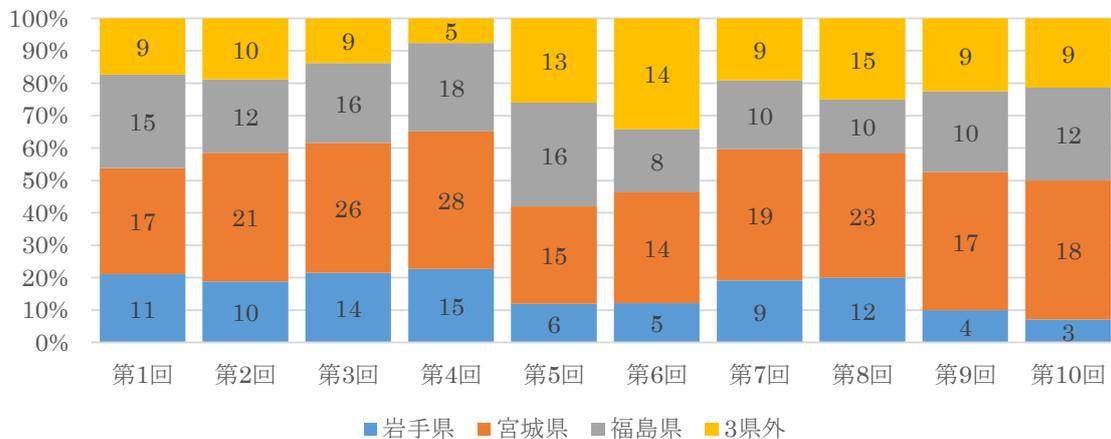
応募件数



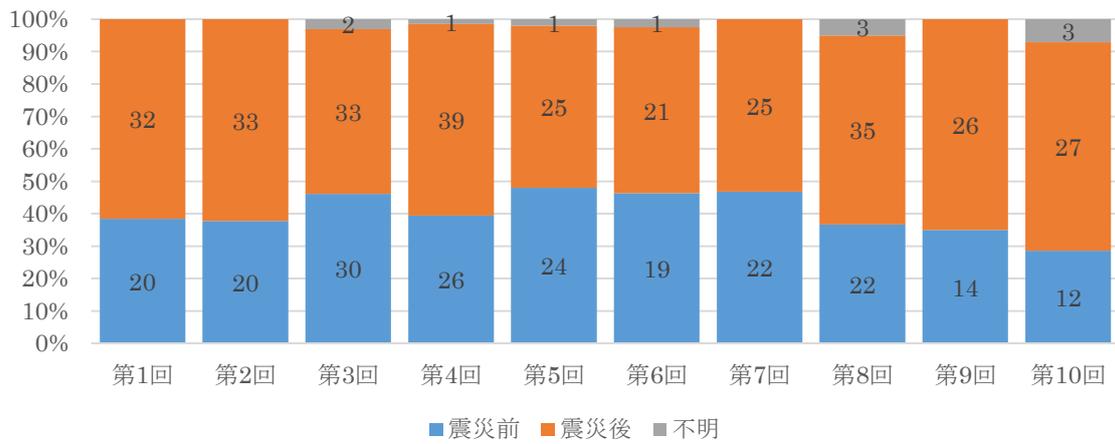
活動地域



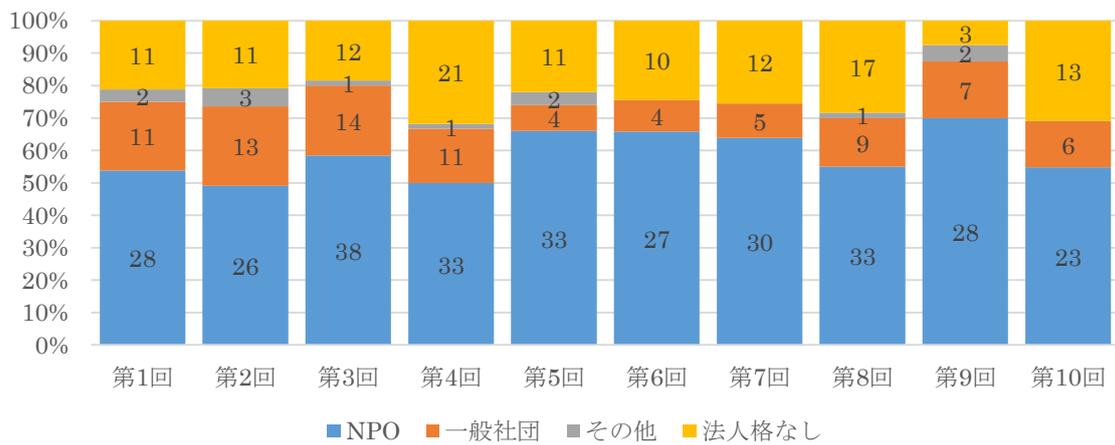
団体所在地



設立時期



法人格



5. 第1回から第10回までの助成対象事業一覧

助成件数 57 件（新規 40 件、継続 17 件）

助成額合計：2 億 3,113 万 4 千円（新規 1 億 7,148 万 4 千円、継続 5,965 万円）

◆岩手県 9 件（新規助成 8 件、継続助成 1 件）（助成額合計 4,024 万円）

	事業名	団体名／代表者名	活動地域	助成額
第 2 回	水中清掃活動並びにその後の子供を対象としたスノーケル教室	特定非営利活動法人 ブルーサポートいわて 理事長 青木 亘	岩手県 大船渡市	312 万円
第 2 回	外部の若者との「交流」と「挑戦」から生まれる協働事業モデルの創出	特定非営利活動法人 SET 理事長・現地統括 三井 俊介	岩手県 陸前高田市	400 万円
第 3 回	東日本大震災文化芸術復興支援事業 希望の飛沫プロジェクト「岩手県三陸沿岸児童・生徒参加型創作ミュージカル公演」	特定非営利活動法人 劇団ゆう 理事長 菊田弟一	岩手県 大船渡市 洋野町	500 万円
第 4 回	岩手に根ざした「和グルメ」を全国発信し地域の産業創出	一般社団法人 SAVE IWATE 理事長 寺井 良夫	岩手県 盛岡市 野田村	483 万円
第 6 回	福祉有償運送事業（障害者や要介護高齢者などの暮らしを支える生活支援）	特定非営利活動法人 愛ネット高田 代表理事 千葉 丑美	岩手県 陸前高田市	500 万円
第 7 回	入浴買い物バス運行による元気・絆復活	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 代表理事 廣田 純一	岩手県 田野畑村	444 万円
第 8 回	大槌町の若手世代対象：自分の町の魅力（再）発見事業	一般社団法人 おらが大槌夢広場 代表理事 臼沢 和行	岩手県 大槌町	500 万円
第 8 回	被災地の人的資源と連携した自立的長期メンタルヘルス支援サービスの構築	認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて 理事長 鈴木 満	岩手県 大槌町	485 万円
第 10 回 継続	障害者や要介護高齢者等の暮らしを支える福祉無償運送事業	特定非営利活動法人 愛ネット高田 代表理事 岡本 幸子	岩手県 陸前高田市	400 万円

◆宮城県 25件（新規助成17件、継続助成8件）（助成額合計9,831万4千円）

	事業名	団体名／代表者名	活動地域	助成額
第1回	津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援	特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 代表理事 石本 めぐみ	宮城県 登米市	498 万円
第1回	在宅住民・仮設住宅住民の孤立防止と災害公営住宅入居者のコミュニティ形成	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山 博史	宮城県 気仙沼市	349 万円
第1回	子育てと就労・コミュニティを包括した事業モデルの創出	特定非営利活動法人 ピースジャム 理事長 佐藤 賢	宮城県 気仙沼市	499.4 万円
第2回	地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表理事 阿部 正孝	宮城県 気仙沼市	440 万円
第3回	南三陸自然史学舎（しぜんのまなびや）構想実現のための2プロジェクト推進	特定非営利活動法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田 喜久	宮城県 本吉郡 南三陸町	350 万円
第3回	私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業	雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨	宮城県 石巻市 雄勝町	360 万円
第3回	HANA 荘コミュニティ運営支援事業	特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター 理事長 松村 善行	宮城県 石巻市	300 万円
第4回	ボランティア・ツアーの継続促進と、発信地との相互交流（観光と物流）拡大支援事業	一般社団法人 南三陸復興まちづくり機構 代表理事 山内 正文	宮城県 南三陸町	451 万円
第4回	被災地のものづくりコミュニティの継続的な運営と発展のための組合的販促支援強化事業	特定非営利活動法人 応援のしっぽ 代表理事 広部 知森	岩手県 宮城県 福島県	471 万円
第5回	街角・Café&軽食 桜さくら／フリースペースららぽーと	特定非営利活動法人 夢みの里 代表理事 菅原桂子	宮城県 石巻市	340 万円
第5回	被災による子どもの貧困救済及び貧困連鎖予防事業	特定非営利活動法人 キッズドア 理事長 渡辺由美子	宮城県 仙台市	456 万円

第5回 継続	津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援第二期	特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 代表理事 石本めぐみ	宮城県 南三陸町	390 万円
第5回 継続	仮設住宅住民の心身の健康維持と災害公営住宅のコミュニティ形成	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山博史	宮城県 気仙沼市	283 万円
第6回	仙台市若林区東部農村地域復興プロジェクト	一般社団法人 ReRoots 代表理事 広瀬 剛史	宮城県 仙台市	460 万円
第6回 継続	地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表理事 阿部 正孝	宮城県 気仙沼市	400 万円
第7回	被災市民による地域コミュニティ維持・担い手育成並びに要援護住民支援の基盤づくりサポート事業	石巻仮設住宅自治連合推進会 会長 増田 敬	宮城県 石巻市	487 万円
第7回 継続	南三陸自然史学舎(しぜんしのまなびや) 構想実現のための2プロジェクト推進	特定非営利活動法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田 喜久	宮城県 南三陸町	370 万円
第7回 継続	私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業	特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨	宮城県 石巻市	200 万円
第8回	長屋門で地域再生～古民家活用モデル構築～	くりはらツーリズムネットワーク 会長 小野寺 敬	宮城県 栗原市	470 万円
第9回	石巻市の地元住民による小中学校サポート活動を通じたコミュニティ形成事業	一般社団法人 プロジェクト結コンソーシアム 理事長 長尾 彰	宮城県 石巻市	490 万円
第9回	雄勝花物語 第5章「若者・お年寄り・女性の参加による故郷復興プロジェクト」	一般社団法人 雄勝花物語 代表理事 徳水 利枝	宮城県 石巻市	428 万円

第9回 継続	街角 Café 桜／フリースペース ららポート	特定非営利活動法人 夢みの里 理事長 菅原 桂子	宮城県 石巻市	340 万円
第9回 継続	被災による子供の貧困救済及 び貧困連鎖予防事業	特定非営利活動法人 キッズドア 理事長 渡辺 由美子	宮城県 仙台市	399 万円
第10回	石巻の復興公営住宅における アートを通じて多世代が交流 できる新しいコミュニティ作り	特定非営利活動法人 にじいろクレヨン 代表理事 柴田 滋紀	宮城県 石巻市	340 万円
第10回 継続	地域住民の生活支援および地 域コミュニティ形成の促進プ ロジェクト	特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表 前澤 由美	宮城県 気仙沼市	260 万円

◆福島県 23件（新規助成15件、継続助成8件）（助成額合計9,258万円）

	事業名	団体名／代表者名	活動地域	助成額
第1回	双葉町役場いわき事務所との連携による双葉町が抱える課題への支援事業	特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポートセンター 理事長 舘 敬	福島県 いわき市	413 万円
第1回	障がい児の被災者家族の支援プロジェクト	特定非営利活動法人 ふよう土2100 理事長 里見 喜生	福島県 いわき市	499 万円
第2回	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一	福島県内	420 万円
第2回	ふくしま移住女性エンパワメントプロジェクト	福島移住女性支援ネットワーク 代表 佐藤 信行	福島県 福島市 白河市	350 万円
第3回	小高区が「新たな一歩」を踏み出すための、世代間まちづくりワークショップ・農業交流事業	特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター 代表理事 門馬 浩二	福島県 南相馬市	450 万円
第3回	福島の幼児の「外遊びデビュー」サポート	特定非営利活動法人 こどもの森ネットワーク 理事長 橋口 直幸	福島県 福島市 郡山市 猪苗代町	400 万円
第3回	障がい者施設へのリサイクル機器貸与による障がい者就労機会創出・国内資源循環促進事業	特定非営利活動法人 くるりんこ 理事長 荒川 健吉	福島県 郡山市	400 万円
第4回	いいたてミュージアム-までの未来へ記憶と物語プロジェクト-	いいたてまでの会 共同代表・幹事長 佐藤 彌右衛門	福島県 飯舘村 福島市	339 万円
第4回	福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育環境を提供する事業	特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太	福島県 郡山市	318 万円
第4回	福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業	特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 代表理事 岩城 幸男	福島県 いわき市	462 万円
第5回	ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」の構築	特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会 理事長 齊藤 昇	福島県 二本松市	470 万円

第5回 継続	障がい児の被災者家族の支援プロジェクト	特定非営利活動法人 ふよう土 2100 理事長 里見喜生	福島県 郡山市	385 万円
第6回	原発被災地域の仮設住民仮設及びみなし仮設)のための要支援者・要介護者急増対策事業	特定非営利活動法人 NPO ほうらい 理事長 小林 義明	福島県 福島市	482 万円
第6回 継続	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一	福島県 全域	400 万円
第7回	食と農の再生・うつくしまプロジェクト～持続可能な地域資産循環型の福島復興へ～	特定非営利活動法人 福島県有機農業ネットワーク 理事長 菅野 正寿	福島県 全域	440 万円
第7回	帰村モデルとしての川内村地域再生事業	特定非営利活動法人 元気になろう福島 理事長 根本 二郎	福島県 川内村	392 万円
第7回 継続	小高区が「アクションを積み重ねていく」ための、世代間まちづくりワークショップと提案事業の協働実践	特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター 代表理事 門馬 浩二	福島県 南相馬市	400 万円
第8回 継続	いいたてミュージアムーまでの未来へ記憶と物語プロジェクトー2015	いいたてまでの会 共同代表 佐藤 彌右衛門	福島県 飯舘村 福島市	398 万円
第8回 継続	福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育を提供する事業	特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太	福島県 郡山市	323 万円
第8回 継続	福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業	認定特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 代表理事 岩城 幸男	福島県 いわき市	317 万円
第9回 継続	ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」	特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会 理事長 齊藤 登	福島県 二本松市	400 万円

第10回	親子の健全な心と体の成長と地域の支援者を育成する「すくのび広場」の運営	すくのびくらぶ 代表 前澤 由美	福島県 いわき市	500 万円
第10回 継続	次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム	一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一	福島県 県内	300 万円